

会 議 録

会 議 の 名 称	令和５年度 第１回行田市市民公益活動推進委員会	
開 催 日 時	令和５年７月１３日（木）開会１０時００分・閉会１１時４０分	
開 催 場 所	コミュニティセンターみずしろ １階ギャラリー	
出 席 者 氏 名	生沢広幸 鈴木信良 金原二郎 島田晴義 山岸泰輔 今村武蔵 野澤 健 澤田春雄 関口行生 鳥海和代 菅野邦男 福島伸悦 田尻 要 堀越 稔 伊藤賀章 芹澤勝巳 増田有紀 ※敬称略	
欠 席 者 氏 名	塚田忠子 木口幸子 水野三枝子 ※敬称略	
事 務 局	地域活動推進課：酒井課長、綿貫主幹、間庭主任及び市民活動サポートセンター職員１名	
会 議 内 容	１ 開会 ２ 委員長挨拶 ３ 議事 （１）市民公益活動推進基本計画について （２）市民活動やる気応援助成金について （３）その他 ４ 閉会	
会 議 資 料	(1) 資料１：行田市版「協働事業提案制度」（案） (2) 資料２：行田市市民活動サポートセンター通信～第６２号～	
その他必要事項	傍聴人 ０名	
会 議 録 の 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 氏 名 記 載 欄
	令和５年 ８ 月 ２ 日	田尻 要

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 委員長 課 長 司 会 事務局 事務局	1 開会 ・開会を宣言 ・欠席者、会議成立の旨の報告（過半数の委員の出席による） ・傍聴人数 0名 2 委員長挨拶 ・田尻委員長あいさつ ・地域活動推進課長あいさつ及び事務局紹介 3 議 事 ・要綱の規定により、会議の議長を委員長が務める旨の説明 （１）行田市市民公益活動推進基本計画について ・「行田市市民公益活動推進基本計画（第２期）に基づいて説明 ・協働事業提案制度の導入について話す前に「やる気応援助成金制度」について触れたい。今年度は、現時点において申請数０件。本委員会での制度に対するこれまでの意見を踏まえ、事務局において制度を精査しており、他市の事例についても調べていたところである。それらを比較・検討する中で、第２期計画のとおり協働のまちづくりを推進するための制度の一つとして、「協働事業提案制度」を本市においても導入することを本委員会で検討してまいりたいと考えている。 ・やる気応援助成金の制度は、「スタート応援事業」、「新たな取り組みの応援事業」として、市民活動の始まりを促すことに重点を置いていた。「協働事業提案制度」は、市民活動団体と行政が協力して事業を行うことで双方の持つ特性を合わせた結果、生まれる相乗効果により、単独で事業を行う場合よりも事業成果をさらに大きなものとする事が出来る可能性を期待するものである。 ・今後、本委員会において、「協働事業提案制度」を検討していく中で「やる気応援助成金制度」のあり方についても検討してまいりたい。 （２）市民活動やる気応援助成金について

島田委員	・資料２に基づいて説明 ・「協働事業提案制度」として、行政と一緒に協働事業をやることについて大賛成である。先日、「市民活動フェア２０２３春まつり」の反省会（みずしろサロン）の時に、地域活動推進課以外の行政職員が市民活動についてどれだけ知っているのかということが話題になった。行政職員に市民活動を知ってもらうことは、我々の市民活動の存続と、活発な活動に必要な要素だと思う。是非お願いしたい。 ・１１月に公益財団法人いきいき埼玉から講師を呼び、地域デビューについて講演していただいたり、我々の市民活動を市民や行政職員に紹介するワークショップがある。市民活動団体も参加するという話をしていた。それも含め、「協働事業提案制度」をお願いしたいと思う。
福島委員	・「やる気応援助成金制度」をやめて、「協働事業提案制度」に移行していくものなのか。
事務局	・今すぐにやめるということは考えていない。将来的に包含するものになるか、または移行するかもしれないが、委員の皆様と一緒に検討を重ねていきたい。
伊藤委員	・「やる気応援助成金制度」の申請件数が０件であることを受け、他市町村を参考に「協働事業提案制度」の導入を考えたとのことだが、計画上の目標には令和９年度から実施するとある。本当に実施できるのか。
事務局	・令和９年度の記載は目標であり、実施のためのスケジュールについて、なるべく早めに検討を重ねてまいりたい。 ・事務局としては、市民の皆様や団体の皆様、そして行政にとってメリットのあることであれば早目にやっていきたいと考えている。この記載はあくまでも目標であるため、皆様と検討を進め、率先すべきものは率先していきたいと考えている。
伊藤委員	・島田委員の発言にもあったが、行政職員が市民活動を認識することは大切なことだと思う。実際に地域活動推進課が市民公益活動推進

事務局	基本計画（第２期）を作った際にも、発表会のようなものを開き、我々、行政職員に周知していただいた。地域活動推進課以外の行政職員の意識の醸成について、皆様と考えてまいりたい。 ・企画政策課伊藤委員から力強いご意見をいただいた。確かに行政職員の意識の醸成について、今までうまくいってなかったと認識している。地域活動推進課に配属されるまで、私自身も市民活動団体がこういった活動をしているのか、あまり認識していなかった。しかし、これまで古代蓮の里でのホテルの見学会に一般参加したり、NPO法人と委託契約を結んだり、山岸委員にはヴェールカフェのことでお世話になったことがあった。認識はしていなくても、当たり前のように携わっていただいていたのだと気が付いた。他の行政職員へ働きかけていきたいと思う。 ・１１月に「協働のまちづくりワークショップ」を開催する予定である。その際、市民活動団体の皆様と行政職員が交流できるようにしたいと考えている。行政職員の意識の啓発に努めてまいりたい。
今村委員	・本委員会に出席しているが、何をしたらいいのかわからない。真剣に市民活動について考え、持続するためには年２、３回の会議では効果がないと思う。市民活動サポートセンターの職員が一生懸命各団体と連絡を取り、少しは前進してきた。「協働事業提案制度」について、他市町村に９月に視察に行くことはしなくてもいいと思う。この会議に立派な活動をしている方が集まっている。その人達と真剣になってワークショップなり協議し、少人数でグループになって、どうやったら市民活動を推進できるのか、行政職員と一緒に頑張って真剣に考えるべきである。年２、３回の会議で議論が深まるとは思えない。その辺のことについて、もう１回考え直すべきである。ここに来ている方々も、何らかの色々な期待を持って来ていると思う。形だけではなく真剣にやるなら毎月やるとか、今日聞いた「協働事業提案制度」も数か月後には忘れてしまう。もう１回考え直さないと、この委員会も本物にはならないと思えてならない。

事務局	・おっしゃる通りの部分もあると思う。本委員会を開催するにあたり、委員報酬と費用弁償が払われているが、今後こういった形で委員会の開催数を増やし、皆様と協議の場を作れるのか、委員報酬についても手弁当でやるのかなど来年の予算要求も踏まえながら検討したい。皆様との意見交換の場はありがたいので、今後調整させていただきたい。 ・次の会議開催について視察研修の話があったが、事務局としては先進市を見て皆様の議論を深めたいと思い、お話しした。皆様が違う方法が良いという意見であれば、違う手法でも構わない。いろんな意見を踏まえながら、こういった形が良いか検討させていただきたい。場合によっては個別に意見交換させてもらうかもしれない。ご意見をいただきたい。
今村委員	・委員報酬のことが出たが、費用が出ているかどうか全然認識がない。市役所が口座に振込みをしているだけである。この会議に出てきて手当を頂いている認識はない。やるのであれば、私はボランティアでも来る。その辺のことが形だけという気がしてならない。事務局サイドももう1回考え直す必要がある。市の色々な会議がそうである。
鈴木委員	・第2回、9月開催の会議で近隣市町村を視察研修し、来年の1月で方向性を協議すること、「協働事業提案制度」の川越、熊谷、北本、深谷の制度について、事務局からの提案にすごく感動した。勉強し、前向きに取り組んでくれている。今村委員は、厳しいことをおっしゃっていたが、企画政策課の伊藤委員の意見があったり、地域活動推進課の職員にもやる気を持っている方がたくさんいる。少しでもやる気のある方達の思いを伸ばしたい。私はいろんな委員会に参加しているが、本委員会の開催は多い方である。他市を参考にしながら前向きに検討していく、良い意見を取り込んでみんなで良いまちにしていこう、試行錯誤を繰り返しながらやっけて行こうというやる気を感じる。いろんな形で議論を深めて考えながら、少しでも前向

島田委員	きに行く姿勢が大事だと思った。 ・ 5月13日に開催した「市民活動フェア2023春まつり」で、私は実行委員として1月から5月まで毎月2回会議を開催した。本委員会は年2、3回の開催だが、市民活動登録団体から24団体が参加し、実行委員会を通じて横の繋がりがさらに深まったと思う。実行委員会と参加した団体の皆様が集まっていろいろな意見交換をしながら、良い「春まつり」にしようとやってきた。そういった考えもあり、小委員会という形のシステムを取った。そこでも地域活動推進課と市民活動サポートセンターの皆様は本当にいろいろ協力して我々の力になってくれた。
関口委員	・ 「協働事業提案制度」自体はいいと思うが、「やる気応援助成金」は結果的にあまりうまくいかなかった。「応募がない」、「構造的な問題」、「行田市民の意識が低い」ということを分析した上で取り組んでいかないと、形だけ真似しても魂が入らない。他市で出来たからうまくいくとは限らない。それについては、今村委員がおっしゃったように年2回ぐらいの会議では無理な部分がある。市民活動サポートセンターの方で、色々なメールとか連絡を頻度高く頂いている。島田委員の春まつりでも小委員会を何回も開いて努力をしている。 ・ 「協働事業提案制度」をやるのであれば、「やる気応援助成金」の改善をきちんと共有した上で、手順についても皆さんと労力に負担が掛からない範囲で考えていかないと形だけになると感じられた。
議 長	・ 私も皆様にお伺いしたかった。「やる気応援助成金」の申請がなかった理由は何だと思うか、皆様にお伺いしたい。
島田委員	・ 提出書類が多い。せっかく用意しても「不採用」になってしまった。もう少し簡略化というか、お金を頂くので当然いろいろな書類が必要だと思うが、もう少し頻繁に出せるようなシステムを考えてもらう必要がある。
関口委員	・ 観光ボランティア会も5年ぐらい前に出したが、提出書類が多いと感じた。結論としてはメリットがない。面倒くさいし、助成率が半

山岸委員	分で、メリットがなさすぎる。 ・単純に大変な思いをするくらいならば、自分達のお金で払うという余裕のある人がこういう活動をしているのだと思う。助成金の申請が大変だったら自分達の会の予算で賄う。応募がないのは、そもそもみんなやる気を持ってやっているので、助成金がなくてもやる人達が多いから申請がないというのもあるのではないか。
福島委員	・制度を知らない人が多いのではないか。私は知り合いから言われて申請した。
山岸委員	・知った頃には団体の年間予算が決まっていて、今から事業計画を作るのかと思う方もいらっしゃると思う。
議長	・市民活動サポートセンターから助成金の案内をしていると思うが、いかがか。
サポセン	・案内している。申請を考えている団体の相談を受けていて感じることに話すと、申請の要件に当てはまらないことがある。市民活動団体の規模は大小あるが、小さい市民活動団体も多い。市民公益活動登録団体の要件では会員数2名以上からとなっているが、やる気応援助成金は10名以上でないと申請が出来ない。また助成率が2分の1なので、仮に10万円以内の事業であっても、その金額の半分以上を調達する必要がある。
議長	・やる気応援助成金の情報はしっかり出されていると思われる。 ・会員数の条件は基準を下げてもいいと思う。メリットを感じられない点については準備が大変で、しかも審査会で落とされる。どのように伝わっているのか分からないが、それでは申請を避けられる可能性がある。審査で落としたことは我々の責任でもある。最近の審査の採点はとても厳しかった。不足だと思われることは申請団体に真摯に受け止めてもらい、アップグレードされていく、そういう場面も必要だとは思いますが、審査の時に厳しくしてしまうと申請団体も気持ちがめげてしまう。 ・「協働事業提案制度」については前向きに取り組んでもらいたいと思

関口委員 議長	う。その反面、「やる気応援助成金」の方がハードルが低いとも思う。なぜかという「協働事業提案制度」の説明スライドに「※事前に事業の担当課と調整しておくことが必要」と書いてあるが、結構なハードルだと思う。「調整」という漢字二文字だが、これは企画がほぼ成立していて、庁内で全て調整がついて、誰がどうするというところ、行政の方も忙しい中でプラスαの仕事を受けてくださることから、意外と簡単ではない。それを必要とした上での話となると「やる気応援助成金」の比ではないかもしれない。 ・「調整」という表現だが、内諾をもらうということによいのか。 ・さらにその内諾がどのくらいのことを指すのかということである。 ・そしてもう一つ、議会を通す場合についてであるが、これは前年度から申請、調整しておいて議会を通して予算を取るというもので、これに至っては本当に言わずもがなの難しさがあると思う。 ・今の提案から、上限10万円とあまり変わらない中で、今後どうしていくかについて我々が決めていく。ある意味、この「協働事業提案制度」は、印象としてハードルが上がる気がしなくもない。 ・今ある「やる気応援助成金」の申請がなかったということを真摯に受け止めて、まず申請してもらい、我々が認めて応援する。何でもかんでもではなく、もちろん審査するが、応援する気持ちで認める。そして、もう少しアップグレードした形として、この「協働事業提案制度」に移行していく。そうすれば令和9年、もしくはうまくいけばもっと前倒しでできるスケジュール感だと、私は理解している。 ・委員会として総括しなくてはならない部分があることについて、皆様も心の中で整理してくれるとありがたい。いずれにしても行政サイドの理解を得ることと、調整がうまくできるのかが大変なところだと理解している。我々からだと言っぱなしになってしまうこともあるし、受け側も大変であることも理解したい。 ・「やる気応援助成金」の申請がなかった理由について、皆様の本音が出て良かったと思う。これらを改善しつつ、「協働事業提案制度」に
--------------------	---

事務局	移行できるように検討したい。 ・事務局に質問だが、予算の取り方はどうなるのか。 ・議論の進み具合によるが、事務局としては、新しい制度が固まるまでは「やる気応援助成金制度」を取り下げるつもりはない。新しい制度が固まりつつある段階で、予算計上としてどういうやり方が適しているのか検討したい。例えば行政提案型では、行政の各所管課で事業費をもっている形もあるし、さらに違う形でやる場合もある。財政サイドに予算増額要求するのか、皆様と話し合いの中で提案していきたい。当然、予算増はなかなか難しいが、市民の皆様とやる事業なので、気持ちでは予算増額してでも進めたいという思いである。そのように上に上げていきたい。
議長	・行政提案型の場合、行政の事業で市民の皆さんと一緒にやった方がいい部分に関しては、新たに予算を取るのではなく、協力することで現行の予算確保の中で進めることができる。それを本委員会で一緒になって検討する。行政が抱えている課題、進めるべきプロジェクトについて、手伝ってくれる市民活動団体を探すことで進みやすくなるかもしれないという印象である。ゼロベースで提案していくよりも、行政が困っていることを私達も一緒になって推進していきましょうという動きやすいと思う。それには行政と私達の距離感の詰め方や、理解度を同じレベルに持っていないといけないという課題がある。それらを踏まえて令和9年の目標達成としているのだろうと思う。
今村委員	・「やる気応援助成金制度」は、「スタート応援事業」と「新たな取組応援事業」の2つである。団体を運営する為には継続してお金がかかる。例えば私共のふるさと創生クラブは、西小学校の支援をしている。小さい地域のグループだが、今までに数回、民間や埼玉県のNPO基金からの助成金を頂いている。トータルすると200数十万円である。これは全部、活動を継続していく為にかかる費用である。継続して続けていくことに各団体とも大変な思いをしている。そう

議 長	いうところにも手当が出来るような方法が必要だと思う。 ・実績を上げているところに継続するための支援も大切なのかもしれない。全方位型の支援は難しい課題である。 ・「協働事業提案制度」のスライドの「事前に調整が必要」ということについて触れた。これはなかなか表に出てこないところである。ホームページを見てもわからない。どういうことをやったのかわからない、実際行ってみて本当のとはどうだったのかという話を伺うチャンスなのかもしれないと考え、視察に行く意味があると思う。9月に視察に行くのか、実施をどうするか。このスケジュールングについても意見を求めたい。
事務局	・皆様にご了解がいただけるならば、視察の実施を決めさせていただきたい。その次の委員会の開催を1月にするかどうかについては、皆様のご都合、また会議の在り方を踏まえ、どういった形にするのか相談させていただきながら随時調整させていただければと思う。9月の視察実施がどうなのかということであれば、事務局で持ち帰り、次のあり方を委員長と話し合いをして皆様に紹介させていただくが、いかがか。
議 長	・もし視察に行くのであれば、行くことだけは決めておいた方がいいと思うがどうか。
鈴木委員	・大変参考になると思う。まずは成功している他市の事例を見て、いい所取りをする。それでどれだけ出来るかわからないが、参考にはなると思う。
福島委員	・島田委員が「市民活動フェア2023春まつり」の24団体の会議をしていたという話について、そういう会議を継続していく計画はあるのか。
島田委員	・「市民活動フェア2023春まつり」実行委員は5月13日で終わってしまった。今度予定しているのは違う形である。11月に埼玉県から職員が来て、市民活動団体のあり方などを見たいというものである。「秋まつり」を開催するならば新たに実行委員会を設けるが、

福島委員 島田委員	今回は「秋まつり」を行わない。これまでは春と秋に年２回開催されていた。また新たに開催するとなれば、３、４か月前から事前に実行委員を募って会議を行うと思う。 ・そういう会議に出てみたいと思う。 ・「春まつり」「秋まつり」の参加については、市民活動サポートセンターからイベント開催の情報が得られると思うので、ぜひお祭りにも参加していただければと思う。 ・去年の「秋まつり」の参加は１１団体、今年の「春まつり」は２４団体と倍に増えた。行田市の市民公益活動登録団体が５２団体なので、約半分の市民活動団体に「春まつり」に出ていただいた。参加する団体が増えれば活発な活動も出来るし、横の繋がりができるので非常に参考になっている。次回から参加していただければありがたい。
事務局	・今まで「春まつり」「秋まつり」という形で皆様の活動を周知するために実施してきたが、年２回の開催にマンネリ化が懸念されるため、１年に１回大きく開催するのはどうかと考えた。春まつりは継続していく考えである。今回１１月にはお祭りではなく、市民の皆様がどのように市民公益活動に参加したらよいか、行政職員がそこにどう参加するかということを強く発信出来るようなものにしたいと思っている。 ・「春まつり」については、島田委員からお話があったとおり、開催の４、５か月前から開催についてと実行委員会への参加についてのご案内を差し上げる。ぜひ皆様にはご参加いただきたい。
今村委員	・秋には教育委員会が事務局のこどもまつりもある。協力してくれる市民活動団体を募集している。こどもまつりもだんだん盛大になっているが、情報のリンクがされてない気がする。ものづくり大学には碧蓮祭が毎年秋にある。これはかなり市民を巻き込んだ形となっている。そういう情報は各セクションだけになっている。私がやっている市民大学も、碧蓮祭に市民大学同窓会として２教室借りて参

山岸委員 議 長 事務局 議 長	加している。どこの課が何をやっているか、横の連絡が非常に大事だと思う。相乗効果で、そこでやっているならば応援しよう、参加しようということが出てくる。 ・この市民活動フェアは一つの理想的な形だと思っている。島田委員が話したように横の繋がりが大事で、市民活動団体が日々、それぞれの目的に沿った中でやっていることを集まってやる。24団体の集まりも非常にいいことだと思うが、ここでお隣同士になっている市民活動団体さんと小規模な事業を企画するのもいいと思う。委員の皆様は各所属団体の代表として集まっているが、この会議に参加していない方も大勢いるので、そういう人達に声掛けをしたり、助成金があることをPRしていくのも市民公益活動推進委員会の役目の一つだと思う。この委員会の中で、市民活動団体に参加していないが市民活動をしている方々に対して、どういうアプローチをしていくのかについてもワークショップとか勉強が必要だと思う。そうすれば、それぞれ自分がある市民活動団体にとってもメリットや戦略になる。ここで知り合った人達で何かを企画して、イベントを詰めて、それを行政に持って一緒にやりませんかというのが一番理想だと思う。行政主体じゃなくても何かを企画して、イベントがあって、みんなで知恵を出し合って、ということができるような勉強が必要である ・視察研修に行くにしても、事前に資料に目を通すとか何かしらの予習をしてから行かないとただの旅行となり意味がないと思う。せっかく各市民活動団体の代表で選ばれた人たちが貴重な視察に行くので、予習して実践の勉強をしてきた方がいいものになると思う。 ・将来的にそういう受け皿になるように「協働事業提案制度」が形になっていくのではないかなと思う。 (3) その他について ・当日配布資料に基づき説明 ・本日予定されていた議題を全て終了した。議長の職を解かせていた
--	--

事務局	だき、進行を事務局にお返しする。 4 閉 会 ・ 閉会を宣言
-----	---